



【どうしたの・大丈夫?】
～すべてのものの悲しみや苦しみによりそう思いやりの心～

よく言われていることですが、私たち人間の乳幼児期はこの世のサムシンググレート(Something great)と言われる偉大なる方から生命が授けられ、肺呼吸などの生命機能、運動機能や身体機能を獲得しながら脳が急速に大きくなり、ことばや対人関係等が発達する特別な時間だといわれてきました。

特に近年では、子ども時代に「愛着(attachment)」をいかに築くかがその後の人生(特に精神的な面において)大きな影響を与えることも明らかになっています。愛着という概念は「子どもと特定の母性的人物(親:養育者)」とのあいだに形成されるという強い結びつき(絆)のことをいいます。

子どもは生れてから五歳までに、親や養育者とのあいだに愛着(強い絆)を形成し、これによって得られた安心感や信頼関係を足がかりにしながら周囲の世界へと関心を広げ、認知力や豊かな感情を育てていくという成長過程をたどっていく、と考えられてきましたがそれらは誤解であるという考え方もあります。

私はある比較認知発達科学の研究者である人が出産を経験し、「新生児、自分の赤ちゃんと出会う」様子を興味深く読ませていただきました。そこには次のように書いていました。

「出産後、10分ほど経ったころでしょうか。助産婦さんが、私が横たわるベッドに息子を連れてきてくれました。彼は仰向けの姿勢で寝かされ、手足の動きをうまくコントロールできずにバタバタともがき続けていました。しかし驚いたことに、そばにいる私と目があった途端、彼は手足を動かすのを止め、目をしっかりと見開いて私の顔を見つめ始めました。

私の方も思わず彼に声をかけ、微笑みを返していました。周囲を好奇のまなざしで見つめ、いろんなことを知りたい、学びたいという気持ちが彼の全身からあふれ出ているようです。

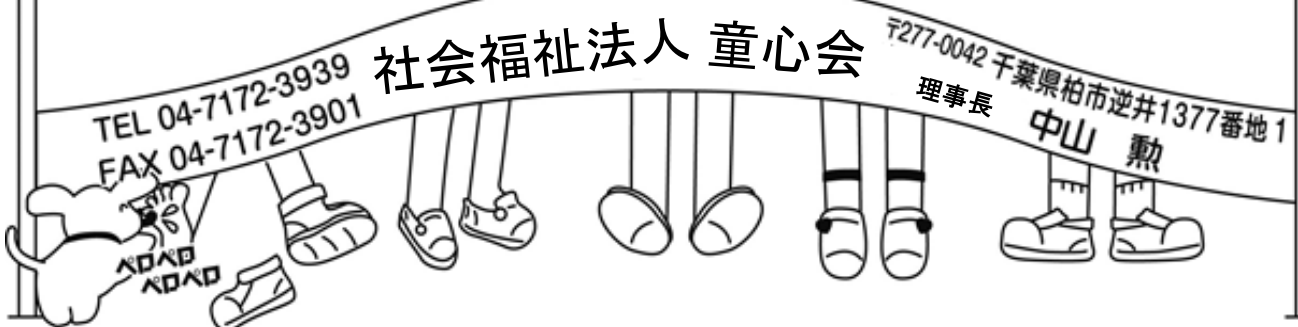
ヒトは決して真っ白な状態で生まれてくるのではないと強く感じました。さらにヒトが獲得した生存戦略は、養育してくれる可能性のある対象を生後すぐに見抜き、



笑ったかす一番 だっこされたかす一番 やさしくされたかす一番
遊んだかす一番 でかけたかす一番 チャレンジしたかす一番



E-mail doushinkai@doushinkai.jp URL <http://doushinkai.jp>



その関心をできるだけ長時間引いて、養育を受ける機会を多く得ることだったと考えられるというのです。
また、自分を見つめる目をもつものを、そうでないものより好んで見たり
その表情を模倣して自ら応答したりすることがわかっています。
これは「新生児模倣」と呼ばれる現象だと言われています（生後2ヶ月革命）。」

改めて先のアタッチメントを考えてみた時、子どもたちの行動に養育者が愛情をもってこたえることにより、安定した愛着が形成され、養育者の存在は子どもにとって「安心できる安全な場所」になるという考え方でした。
つまり、人間の子どもは大人の養育者なしには生きていけないという大前提の上に立っていました。
しかし、改めて「新生児、自分の赤ちゃんと出会う」を読んでふり返ってみた時、
出産後10分ほど経ったころでしょうか。生まれたばかりの赤ちゃんでさえ目をしっかりと見開いて、
母親の顔を見つめ、関心を引きつけていました。
アタッチメントの大前提、つまり人間の子どもは大人の養育なしには生きていけないのではなく、
母親のほほ笑み返しを受けてから周囲を好奇の眼差しで見つめ、いろんなことを知りたい、
学びたいという気持ちが赤ちゃんの全身から溢れ出ているということを知って、人は生れ、
生命を授けられた時から「五感の刺激、ふれあいと見守り、抱きしめ言葉」を通して、
主体的に自らが学び、自らが考え、応答することで共同養育者を多く得ることができ、
生きることにつながると科学的エビデンスは実証してくれているのです。

私は人間教育に関わる仕事を長くしてきて気づかされたことがあります。
それは”おだやかな生活”をしている家庭の子はとても心が落ち着いていて、
ゆったりとして安らかな表情をしていたということです。
それらはどのようにして生まれ、身につけてきたのか、その答えは今月号のタイトルにある
「どうしたの・大丈夫？」という思いやりの心から生れてくるのです。

「新生児・自分の赤ちゃんに出会う」に書いてあるように
生命を授けられ、生命機能を与えられた時から子どもは生き方を学び始めているということなのです。
私たち(社福)童心会はそれをServe & return(応答関係)と言っています。

- 1) 子どもたちの感情(喜怒哀楽)の表出に対して、受容・共感してあげられたかを問いつづけます。
- 2) 子どもたちの情動(恐れ、不安、おののき)に対して、だきしめ言葉で素早く応答したのか、が求められます。
「どうしたの？大丈夫？」とはすべてのものの、悲しみや苦しみによりそう思いやりの心であると解釈し、
私たちはServe & returnを繰り返しています。

私たち(社福)童心会には、昔から語り継がれた人間学に基づいた人間教育に対する合言葉があります。
下記に書いてある、やればできる(mind set)、やり抜く力(grit)です。
即ち、すべての人の育ちは「愛された育ち」、「抱きしめ言葉」から成り立つのです。
だから全ての感情・情動が受容、共感され、Serve & returnされてきたのか、が問われているのです。

やればできる(mind set)	やり抜く力(grit)
がんばること(体の力)	やる気(意欲)
つづけること(学ぶ力)	げん気(気力)
がんばること(心の力)	ほん気(意志)

改めてすべてのもの、こと、心のはじまりは「どうしたの・大丈夫？」という
Care mind(思いやる心)、Care work(思いやる心遣い)から
穏やかで安らかなWell being(より良い幸せ)を探し求めることができるのかも知れません。
よろしくご協力下さい。

令和4年7月 吉日
社会福祉法人 童心会
理事長 中山 勲

※ 童心会だよりはホームページ上でご覧になれます。
理事長の部屋【<http://doushinkai.jp/message/>】